

次世代農家が語るコロナ禍の今と未来



仙台牛の産地川崎町で畜産業を営む㈱ライフ
ルフーム菅生の菅生亮太さん（30）は、コロ
ナ禍の現状について心境を語った。

「昨年の3月から5月は緊急事態宣言渦中で
価格・市場動向の低迷により一番苦しい時期だ
った。そのような状況の中で、全農みやぎ仲介のもと宮城県南部を中心に、生産者の顔が
見える仙台牛の特売会としてスーパーに出荷することができた。うまいと言って貰えると
素直に嬉しい。店頭に出向き直接消費者と目線が合う貴重な機会が何より新鮮で有難かつ
た」

亮太さんのポリシーは、「人の口に入るものは安全性を徹底すること。また、牛の一生を
預かっているので心身のケアを一番に飼育・出荷すること」で、それが肉質や仙台牛特有
の甘みに反映されている。

最近は国の支援により市場も多少持ち直しているが、今冬の都市圏の緊急事態宣言が全
国の畜産業に影響するのではないかと不安は尽きない。

将来について、次世代を担う亮太さんは、「SNSを活用した農作物のPRを行いたい。
地域農業を守りながら遊休農地を活用し、耕畜連携による地域循環で地元へ貢献したい」
と語ってくれた。